



夏休み明けの「再会」と「再開」

校長 馬渡 照代

39日間に渡る夏休みが終わり、たくさんの楽しい思い出を抱えて、元気に子どもたちが学校に戻ってきました。今年の夏も例年に変わらず猛暑が続きましたが、それでも、ラジオ体操やお祭り、縁日が、あちこちの町内会で開催されていました。多くの子どもたちが参加し、楽しく過ごすことができました。地域の皆様が、子どもたちのために趣向を凝らして開催してくださっていることに、改めて感謝の気持ちでいっぱいです。これからの季節も、まだまだ残暑の厳しい日が続きますので、熱中症対策を確実に取りながら安全に学校生活を送れるよう、しっかりと子どもたち一人一人を見守ってまいります。また、休み明けの子どもたちの様子も、ご家庭と連携しながら丁寧に見ていきたいと思っています。何か心配なことがありましたら、遠慮なくご相談ください。

さて、6月に5年生が三浦へ、7月には、6年生が日光に行ってきました。三浦では、荒天のため筏体験はできませんでしたが、磯遊びで高めの波と戯れ、岩場では水生生物を夢中になって探す姿があちこちで見られました。夜は、楽しみにしていたキャンプファイヤーで、皆汗だくになって踊ったり歌ったりし、最高の夜を過ごしていました。翌日、暑い中でしたが、農家の方のお話を伺った後畑で芋掘りを行い、お土産のジャガイモを手は無事帰ってきました。

6年生は、鉱害の影響の残る山で植樹体験をしたり、足尾銅山、世界遺産の日光東照宮等を見学したりしました。雨が絶え間なく降り続く中ではありましたが、ほぼ予定通り、修学旅行に相応しい活動を満喫することができました。夜は、心配していた雨も上がり、湯の湖湖畔でキャンプファイヤーを行いました。日光でのキャンプファイヤーは、私の長い教員生活でも初めてのことでしたが、子どもたちがよく考えて自主的に活動していたので大いに盛り上がり、楽しい時間を過ごすことができました。

9月からは、いよいよ全校でスポーツフェスティバルに向けて動き出します。応援団等も決まり、早速練習が始まります。私は、応援団を中心に全校心を一つにして練り広げられる大岡小の応援パフォーマンスは、横浜一だと思っています。今年もどのような応援になるか、今から楽しみでなりません。もちろん、競技やリレー、なかよし活動も楽しみです。そのスポフォスに向けて、子どもたちの熱い思いが伝わってくる各色のスローガンが決まりましたので、紹介いたします。

- ・赤組－みんなで協力バトンをつなぎ、優勝へ導く道を切り開け 絶対王者の赤組
- ・黄色組－光のように輝き、仲間を大切に優勝のトロフィーを掴み取れ 最強の黄色組
- ・青組－大切な仲間とともに歩み出し、勝利を勝ち取れ 絶対優勝青組！

各色のスローガンには、何を大切にしていきたいか（下線部）、ということがしっかり謳われています。単に優勝しよう、というだけのスローガンではないところが、大岡っ子の考え方の良いところでもあります。スローガンに相応しいシンボルマークも決定し、「このシンボルマークのような姿になれるように、全校でスポフェスを創り上げていきましょう。」というメッセージが、創り上げる委員会から各クラスに伝えられました。今日から本格的に再開し、当日を迎えます。保護者・地域の皆様も、ご期待ください。

また、9月は、学習や生活面などでのまとめの月でもあります。良いところは更に伸ばし、そうでないところは改善できるよう、しっかりサポートしてまいります。今後も、本校の教育活動にご理解とご協力を賜りますよう、よろしく願いいたします。

6月19日、「よこはま子ども国際スピーチコンテスト」の南区審査会に6年3組松島甘菜さんが出場しました。堂々と自分の考えを発表し、とても立派でした。スピーチを紹介いたします。

～平等な社会にするために～

私は、平等な社会にしたいと考えます。なぜなら、平等な社会であれば、差が生まれず楽しく生活できると考えたからです。

私が平等な社会について考えるきっかけとなったのは、私が5年生の時車椅子バスケットをしたことです。クラスでは、「障害のある人と関わりたい。」という思いから、パラスポーツをすることにしました。パラスポーツとは、障害のある方が行うスポーツで独自のルールが考えられています。その中で、障害のない人も一緒に行えるものもあると知り、私たちは車椅子バスケットを体験してみることにしました。

私は車椅子に乗ったことがなかったので、車椅子を上手く操作できるのか不安でした。しかも同時にボールを使うことができるのかと心配で、とても難しいと思っていました。けれど、いつも車椅子に乗っている友達が車椅子バスケットを習っていて、クラスみんなにコツを教えてくれたのです。

車椅子バスケットをする前は、車椅子に乗っている友達のことを、自分と同じように考えていました。それは、彼が大変そうな姿を見せずに過ごしていたからです。ですが、車椅子バスケットを体験した後は、車椅子の操作の難しさがわかり、彼はいつもすごいことをしていたんだと、見方が変わりました。

また、私は車椅子バスケットをしていて気づいたことがあります。それは、みんな平等な条件でできるということは楽しいということです。彼は、努力してみんなと同じことをしようとしていましたが、それでもみんなと同じ条件でできないことがありました。ですが、車椅子バスケットをしたときは、彼と差が生まれず、平等に試合ができました。初めて平等に楽しめたことが、私は嬉しかったです。

その後私は、「誰にでもできるか」という視点をもって考えられるようになりました。共有の物を片付ける時には、「ここに置いたら誰でも届くかな。」道を歩く時には、「階段しかないけれど、誰でも通れるのかな。」遊びのルールを考える時には、「このルールでみんなが参加できて、楽しめるかな。」などと考えています。縦割りグループで遊びを決める時には、1から6年生までが、平等に楽しめる遊びを選びました。自分の力で改善できることとできないことはありますが、私はその考えを続けていきたいと思っています。

1人ひとりが常に「誰にでもできるか」という視点をもつことで平等な社会になり、みんなが心地良く楽しい生活を送れることにつながるのではないかと思います。皆さんも一緒に「誰にでもできるか」という視点をもって過ごしていきませんか。

(原文のまま)

【着任・産休する教諭について】

この度、井田志帆(いだしほ)教諭が8月13日(水)付で産休に入りました。また、伊原典子(いはらのりこ)教諭が8月27日(水)付で着任します。ご承知おきください。